

第 1 回 犀川周辺エリア魅力向上整備基本計画検討委員会
議事概要

【開催概要】

日時：令和 7 年 7 月 7 日（月） 9:30～10:50

場所：金沢市役所第二本庁舎 2 階 2203 会議室

【議事要旨】

（１）委員長選任

事務局から、金沢大学准教授の丸谷委員の委員長就任を提案し、全会一致で承認

（２）意見交換

＜甚田委員＞

- ・河川空間の活用や回遊性を高める取組は必要と考えているが、防災の観点も重要。昭和 36 年の第二室戸台風により伊藤病院付近の堤防が決壊し、その一帯が被害を受けた。
- ・近年、異常気象なども続いているため、災害時と平常時の使い分けを考えることも大切である。平常時の活用にあたって現在は、県の施工によるハード整備を順次行って頂いており有難く思っている。

＜稲荷委員＞

- ・昨年の春に、能登半島復興支援をテーマの一つとしつつ桜の時期に犀川河川空間を活用したイベントを開催し、多くの人にお越しいただいた。その経験からも河川敷を楽しみたいというニーズは多いと感じた。
- ・単発のイベントだけではなく、ここに行けば日常的に楽しめるといったような仕掛けづくりを検討してもらいたい。その結果、賑わいも生まれると考えている。一方で、住民への配慮も必要である。
- ・防災まちづくりの視点で発言すると、河川敷の護岸は 60 年以上の歴史があると伺ったことがあるので、コンクリートの耐用年数も踏まえ、将来的な維持管理にも留意いただきたい。また、犀川大橋詰にある市道は、自動車と自転車と歩行者の往来が激しいにもかかわらず道路幅員が小さいため、それぞれの導線を分けるなど何らかの対応が必要と考える。

＜事務局（県央土木）＞

- ・護岸の劣化状況については、月 1 回のパトロール等で現場確認をしており、適切な維持管理に努めていきたい。

<丸谷委員長>

- ・犀川大橋の橋詰において、特に朝夕の時間帯で交通量が集中しており、歩行者の安全な通行が難しい状況となっている。これは、以前からも課題として挙げられている。

<諸江委員>

- ・桜橋から犀川大橋に抜ける市道は抜け道利用も多く、ボトルネックとなっている。また、信号が赤色または黄色点滅となっており、改善の余地があるのではないかと感じる。歩行者は歩道のない狭い道路を通らなければならないため、危ないと感じる。
- ・親水性の観点では、犀川大橋から200～300m先の伊藤病院付近まで行かないと河川敷に降りることができない。犀川大橋詰に階段があると、歩行者の事故のリスクも低減できるのではないかと。信号や歩道などを一体的に考え、犀川大橋詰に階段を設置することも検討できるとよい。
- ・整備基本計画の対象エリアについて、犀川大橋～桜橋間を対象としているが、回遊性の観点からは、対象エリアをもう少し広げることも検討してほしい。関連として犀川大橋の下流側では、樹木が繁茂して暗い箇所があり、防犯上の課題もあると思われるため、照明の設置や樹木の伐採について検討してもらいたい。

<中野室長>

- ・犀川かわまちづくり計画の重点区間に合わせて対象エリアを設定しているが、その賑わいを周辺に波及していくことの大切さは認識している。諸江委員のご指摘については、整備計画の滲みだしの中で、安全対策などを検討していきたい。

<伊藤委員>

- ・令和4年度に犀川河川敷も対象としたパブリックライフ・ウィークを実施し、市民が公共空間を使いこなす方法について金沢市と共同研究を行った。
- ・犀川河川敷はとても良い場所と感じているが、桜の時期やイベントの際は多くの方が訪れるものの、普段は滞留する人がほとんどいない印象がある。イベントだけでなく、日常的に人が過ごす場所になると良い。
- ・河川沿いに目的地となる場所が少ないことが利活用の少なさのひとつの要因ではないか。川沿いの道に河川を意識した民間店舗が増えれば良いが、まずはたとえば桜橋右岸下流河岸緑地に、拠点機能として河川のコンシェルジュのようなものがあると、活用のきっかけになるのではないかと。また、アクセス面では、まちのりが便利と考えているが、ポート数を増やすなど、周辺からのアクセス性を更に高められると良い。

- ・夜間においても、目的地が周辺に少ないことから、ライトアップだけでは回遊性の向上につながりにくいのではないかと。一方で、周辺住民の理解が得られず、仕掛けづくりが上手く機能していないケースも他都市では見られるので、周辺住民への配慮は重要だと考えている。

<丸谷委員長>

- ・住民は、散歩やランニングなどで河川敷を利用しているが、滞在せずに通り過ぎてしまうことが多い。また、犀川を背にしている飲食店が多いため、犀川との距離感がある印象を受けている。
- ・桜橋右岸下流河岸緑地については、バス停やまちのりポートもあり、イメージパースで描いているような犀川の拠点となると良い。

<笠原委員>

- ・今回策定する整備基本計画では、何のためにどんな新たな魅力を創出するのかを考えることが大切だ。
- ・他都市では、住居でアートや植物を提供するなど、住居を目的地化している事例もある。犀川周辺にある空き家などを活用し、目的地となるスポットを設けることも有意義ではないか。
- ・若者の視点で言えば、金沢駅から 30 分ほどかかる大学周辺で生活している大学生にとって、まちなかにすら訪れることが少ない状況で、まちのりでしか行けない場所にわざわざアクセスすることはあまり想像できない。
- ・観光客の多くは、金沢駅や兼六園などの観光地を 1 日で周遊していると思われるので、2 日目に訪れたくなる場所に犀川をするためにも、犀川周辺エリアをまちのりで回遊できるエリアというブランドイメージを定着させてはどうか。
例えば、木倉町は、夜飲みに行って楽しい場所であるイメージが定着しているように感じるが、犀川においては、金沢未来のまち創造館と連携する方向も考えられるのではないかと。

<甚田委員>

- ・住民にとって犀川は、自由に川遊びができるなど自然の豊かさやゆとりが魅力である。地元を離れた間は、川が近くになくとても寂しかったことを覚えている。
室生犀星が犀川を大切にしているように、犀川を誇りに感じる住民が多いので、次の世代へも伝えていきたいと思っている。

<事務局>

- ・若い方が感じる魅力は、賑わいやブランドというイメージがあり、そのような空間が必要と感じている。一方、甚田委員のように憩えて余裕があることが魅力であると感じている方もいる。新たな魅力の創出とは、多くの人がたくさん集まることではなく、住民や来街者が佇んで心地よいと感じることを意味している。そのためにも、日常的な拠点などの仕掛けがあると良いと考えている。
- ・旧新堅町小学校の跡地については、大学のサテライト機能を視野に入れて大学と連携するなど、学生が訪れる仕掛けづくりも並行して検討しているところである。

<丸谷委員長>

- ・1980年代から1990年代にかけて、まちと川の関係が希薄化したが、現在、どのように関係を取り戻すかが課題となっている。昔は川にも自由に入ることができたが、今は川とどのような親しみ方ができるか、計画の策定にあたっては重要な視点となるだろう。
- ・また、住民と観光客の両視点においては、住民が楽しむ延長線上に、観光客も楽しんでもらうような活用が大切であると考えている。
- ・近年、海外から金沢に訪れる観光客は、海を見てゆっくり過ごせる場所として内灘が人気となっているそうだ。犀川においては、散歩をしていたり、子どもが遊んでいたりするイメージを計画に落とし込めると良いのではないかな。

<片桐委員>

- ・まちや人々のニーズは移り変わるが、河川空間のハード整備の機会は少なく、耐用年数も長いので、長期的な視野を持って行われる必要がある。様々なことを受け止められるまちの基盤としてのあり方を考え、整備することが重要であると感じている。
- ・川から背を向けている店舗が多いということであったが、犀川周辺の集客施設を調査したところ、当該地は掘込構造であるため、1階からも犀川が見られるところも多く、その環境を立地選択の理由として挙げる店舗や、川を意識した店内レイアウトなども見られた。片町の賑やかさの連続性と合わせて、池田町や中川除町などにある雰囲気の良い店舗とその落ち着きのある雰囲気も大切にしたい。
- ・桜の木については老朽化が進んでいることから、10年後20年後を想定し計画的に更新するなど、長期的な視点で長く沢山の人が楽しめる空間づくりを念頭に置いて検討を行っていきたい。

< 甚田委員 >

- ・桜は植樹して 50～60 年ほど経過しているが、先日県央土木事務所で 1 本を植え替えてもらい、地元で管理している。金沢市立犀桜小学校の校名にも「桜」が使われていることや、日本画や洋画において犀川と一緒に桜が描かれることが非常に多いことから、犀川の風景には桜が必要不可欠と感じている。

< 丸谷委員長 >

- ・これまでは、右岸側に関する議論であった。左岸側においては、桜橋詰においてウッドデッキの整備を進めているところだが、他に活用イメージや課題などがあればご意見いただきたい。

< 諸江委員 >

- ・左岸側に限ったことではないが、犀川大橋から犀川上流を眺める眺望点があるように、桜並木や山がきれいに見えるなど、犀川周辺から見える景色は素晴らしいものが多く、左岸側においても眺望点が多くあるように感じている。公的空間で山が見える場所は多くないだろう。

< 伊藤委員 >

- ・左岸側は台地となっており眺望が良いと感じている。また、個人的に坂を上がる途中にあるカフェから犀川を眺めるのが好きである。左岸側には高いところから犀川を眺められる場所が多く、住宅だけでなく商業施設もあることが 1 つのポイントだと感じている。

< 甚田委員 >

- ・W 坂を上がった先から見る景色は面白い。そのほか、つば甚や寺町 5 丁目緑地などからも犀川と犀川大橋などの風景が重なる景色を楽しむことができ、見る地点によって、犀川の印象が異なる。また、夜の犀川や片町の雰囲気と相まって、そのようなお店でいただくお酒や料理も美味しく感じる。夜間の照明が明るすぎるとその雰囲気が壊れてしまうかもしれない。
- ・左岸側には、魅力的な眺望スポットが点在しており、これは右岸側にはない特徴である。これらの魅力をつなぎ、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館まで回遊させることも可能ではないか。

< 丸谷委員長 >

- ・日常的な過ごし方を捉えながら計画を策定していくことが重要であることを改めて感じた。

- ・ウォーカブルの視点や自動車と人との関係を考えながら、歩車分離などの視点で議論を行い、計画に反映していきたい。また、自然の連続性については、桜並木などを含め、周辺環境との関係性を踏まえて検討を進めていきたい。

以上